

この本、
いかがですか？

“「異なり」の言葉の裏に 家族の力強い連帯を感じる”

評者

棚木めぐみ

マザリーズ助産院

絵

画でも文章でも、白眉と謳われるものは皆、作者がその作品にたどりつくために、前人未踏の地への心の旅をして帰ってきた感が漂っています。読み始めてすぐ、「ああ、この本はそういうものだ」って思いました。

著者であるパパの感性が炸裂しています。実用書でも育児書でもない。ハイクオリティな詩、純文学にも似た筆致。何とも言えない輝きが、行間から眩しく放たれています。写真家さんなので合間に差し込まれた写真もいい。一瞬のきらめきを切り取る技が卓越しています。

ろう者であるパパは、夜、むずかるわが子を屋外の散歩中に抱いてあやしながら、ひとりで歌が湧いてきたことに驚きます。久しく使っていなかった声帯を使い、月の下で紡がれるパパのその子守歌に、坊やはすうすう眠りにつきます。

ママは、素敵な手の物語の名手です。樹君の顔の前でさまざまな動物がいきいきと現れては消え、最後には流れ星となって樹君の顔に落ち、砂粒となって消え去る……。樹君の目を通して、読者はママの手話をまるで絵巻物みたいに感じます。

パパとママの、静謐で饒舌なろうの世界の奥深さに圧倒され、聴者である坊やとの可愛さMAXの世界に魅了されます。

ろうの方の「ことば」は、聴者の「言語」とは異なり、3Dです。生き物です。感情です。空気の揺らめき、一瞬のまなざし、ぬくもり、



〈シリーズケアをひらく〉 異なり記念日

齋藤陽道 著
本体 2000 円＋税
医学書院／2018 年

独特の舌打ちの音。「言語」によらない豊かすぎることば。読んでいて、どんどん心が滋養されます。小さくて、甘美な、秘密のお菓子を1人でこっそり食べている気分です。

もちろん、ろうゆえの苦悩や、葛藤や、恐怖やトラウマもあります。パパと坊やは聴力という点で隔たりがある。圧倒的な「異なり」がある。

でも、それでいい。異なることが嬉しい。違っていい。私はこの本のタイトルの「異なり」という言葉の裏に、その100倍、200倍もの、力強い連帯を感じました。「異なり」から始まる、力強い未来を感じました。

病棟で日々疲れ果てている、大勢の助産師の皆さん、頁を繰って癒されてください。そしてあなたの大事な人や愛する人に、ここぞという時、贈ってください。「好き好き好き！」という、樹君がお得意の手話……人差し指と親指であごを挟むように滑らせて前に出す、すっかり覚えてしまったあの手話とともに、私も、私の大切な人に、この本を贈ろうと思います。